

女川ボランティア報告

2011.4.20

*** 報告者: 伊藤 健一 <神奈川県大和市在住、TUWV OB>**

*** 活動期間: 4月11日(月)～16日(土)**

*** 報告内容**

1. 被災地状況 (自分なりの地図解析)

2. ボランティア活動日誌

3. 被災者・避難所生活

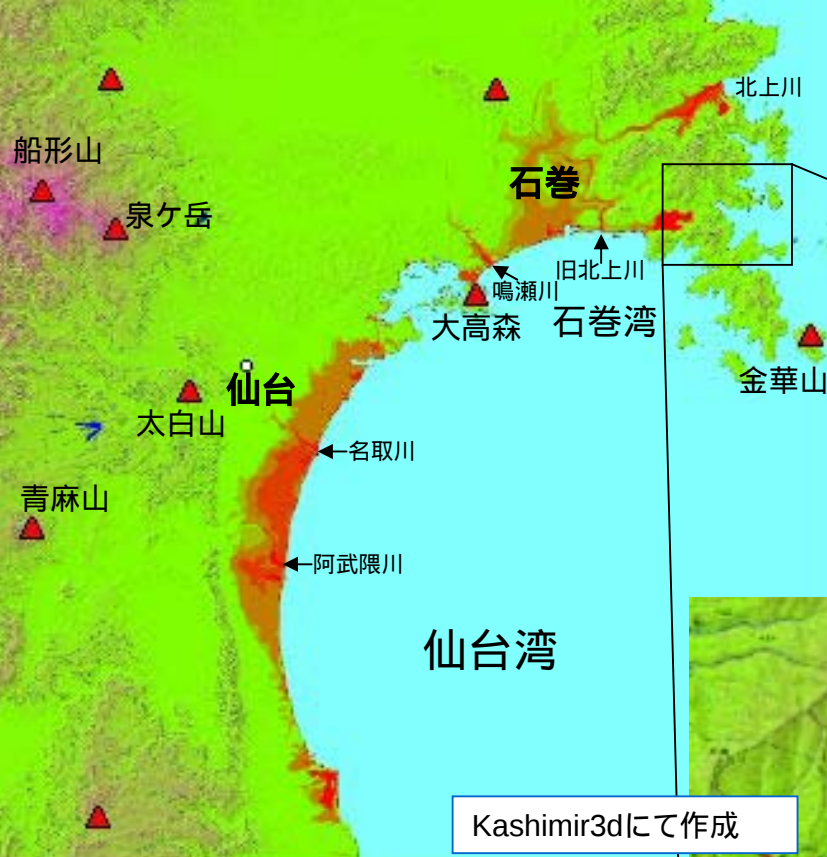
4. 女川町復興の歩み

5. ボランティアに来ている人達

1. 被災状況

2月末の町人口10,016人 (2月)
死者:429人(4/17)
行方不明: 1066人(4/17)
避難者数: 2069人(4/17)
6405人(3/25)

女川町 (赤色は15m以下の地域)



宮城県

(赤色は標高4m以下の地域)

女川町主要部(1)

(赤色は15m以下の地域)

津波高さは14mと
言われているが、

津波はトンネルから
吹き出し(トンネル
入口で約15m、
出口で20数m)、

峠を越えた

駆け上がる波は
20mあるいは
それ以上に
なっていたと
考えられる。



女川町主要部(2) (赤色は20m以下の地域) <Kashimir設定は30m>

町立病院・福祉センター



* 第二小学校(町役場移転先、ボランティアセンター)、
* 総合運動場(避難所、自衛隊基地)

マリンパル女川



久野さん宅

林さん宅

石巻線) 女川駅跡

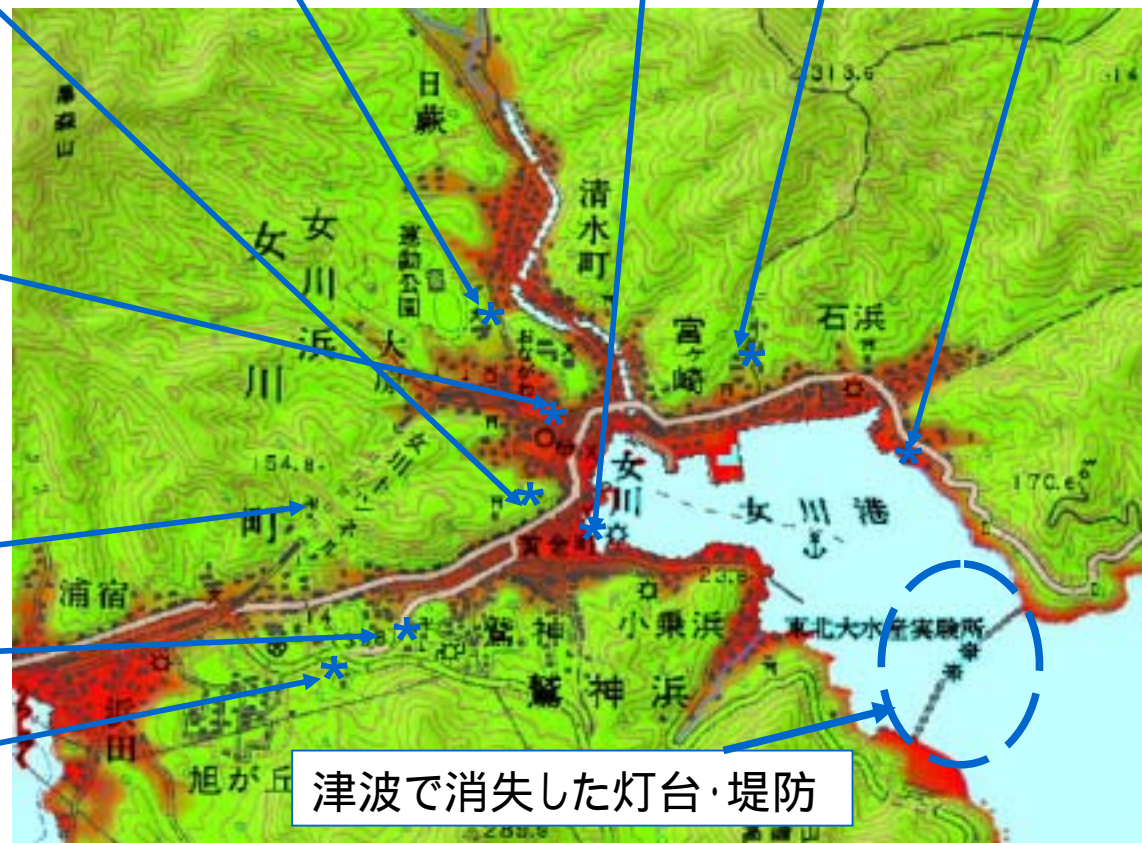


藤中さんの寺子屋 / 照源寺

勤労青少年センター
(藤中さんの避難所)

仮土葬所

津波で消失した灯台・堤防



福祉センターからのパノラマ

住宅が残っている境目のライン

4月11日撮影



藤中さんの知り合いの方のご遺体が14日に見つかった場所

津波が来たときの風景(仮想図)

津波濁流



実際は、このビルも波に飲まれた
…撮影地点が津波高さより低かったため

2. ボランティア活動日誌(1)

* 11日早朝、仙台を出発し、8時過ぎに女川着。まず、勤労青少年センターにいる藤中さんに会い、寺子屋場所を提供している照源禅寺に行って問題集等の差し入れを渡す。その後、第二小学校にあるボランティアセンターに行き、ボランティア登録後、活動を開始。ボランティア活動は9時受付後、その日の活動場所を指定され、16時迄。



照源禅寺・・・藤中塾で清掃奉仕をしていた縁

* 11日午前：福祉センターに行き、津波で汚れたごみ袋の泥落とし、整理・移動を行う<社協)木村さんと、川島さん、湯上さんと>。



ごみ袋は授産所製品・・・売り物にならないと嘆いていた・・・どうなるのだろう？

* 11日午後：石浜の林さん宅の泥出し・廃棄物搬出<川島さん、湯上さん、芳樹君(地元中3)と>

林さん宅は海際にあり、津波にすべて吞まれたが、屋根の一部損傷だけで奇跡的に残った家。ご主人の龍雄さんは、水産業・協同シーフーズ社長であり、隣接工場3棟で残った1棟と共に、再建する意欲満々。ただし、家具・衣類等すべて泥・油まみれ(対岸の工場から魚油が流れてきた)・魚まみれ(秋刀魚・鯖等・・・加工原料)であり、家の中はまさに壮絶である。しかも、家再建のための耐震検査を受けるため、龍雄さんが、壁の石膏ボードの撤去も始めており、とても一日では済まず、継続となる。



林さん宅内部

2. ボランティア活動日誌(2)

* 12日午前: 久野さん宅 泥出し・海水出し・家財搬出<川島さん、湯上さん、池辺さん達と>

傾斜地にあって、津波当時2階に避難して無事だったが、奥さんは牡鹿町の役場勤めのため、片付けの間もなく、出勤。そのまま役場で、介護も含め、仕事・仕事・・・1ヶ月ぶりに家に帰って唖然とした、とのこと。ご主人は女川原発勤めで、同様。息子さん(藤中さんの教え子とのこと)と一緒に片付けているところに応援に行った。瓦礫集積場まで50mくらいの坂があり、ご主人が借りてきたトラックに、畳やひっくり返っている冷蔵庫、洗濯機等、一階のものを積み込み、移動して積み下ろし、の連続。

* 12日午後: 林さん宅へ<午前メンバー+池亀さん、山本さん>

昨日の続きだが、人数も増えたので2階と1階に別れて、ごみ出し。2階のごみは、窓から投げ棄て。私は1階を受け持ち、奥さんと娘さんが黙々とやっていると、家具等の大物出し。ご主人がねこ車(一輪車)を借りてきたので、能率良くなってきたが、ごみが溜まって棄て場所がなくなってくる・・・壊れた扉等をごみの上に渡して、遠くに棄てられるようにして、やはり、皆、黙々。時々、サンマやサバが現れ、海水・魚油と混じって、作業着がどんどん臭くなる。

・・・ということで、終了後、総合運動場テニスコートに開設されている自衛隊風呂“弘法の湯”に初めて入り、隣接洗濯場で、作業着・長靴の臭い取りお湯拭きを行う。



自衛隊設営の“弘法の湯” 左、女風呂、右、男風呂

2. ボランティア活動日誌(3)

* 13日午前/午後: 林さん宅継続<川島さん、湯上さん、原発のある青森県東通村役場から3名、

およびサイエントロジー教会ボランティア組織ミニスターから2名の計8名>

3日目で目途を付けるため、総勢8名プラス林さん関係者4名にて集中活動。1階の台所・風呂・トイレの設備撤去や泥出し、壁剥がし、そして衣類・本や食材等・・・とにかく物持ちのお宅で、下左の写真の通り、家の周りはおみの山になった。1階の壁剥がしが残り、それが終わってから、再度来ることになって一段落。記念写真(下中の写真)を撮り、津波にもまれた酒・ワイン等をおみやげにもらった。

林さんは、骨組みだけになった家の柱や梁の垂直水平度を水準器でチェックし、再建の自信を深めた様子。家・工場を復活させ、女川の水産業そして雇用を守ると意欲的である。



林さんと

２．ボランティア活動日誌（４）

＊ 14日午前/午後： マリンピア女川の2階レストラン食器の泥落とし

＜湯上さん、池辺さんら総勢12名＞

前日からの継続だが、食器があまりに多いので、増員しての対応。
レストランオーナーが是非お店を再開したい、との要請によるとのこと。
2階から食器を下ろし、地盤沈下（1m沈んだとのこと）で満ちてきた
海水で泥を落とす作業である。

昼頃、女川生まれの中村雅俊（写真右中 ＊ 印）が現れ、マリンピア
屋上から垂れ幕 “女川の町は俺達を守る 中村雅俊”（写真
右上）を降ろしたが、風に煽られて引き上げ。帰り際、目の前で食器
洗いをしている我々ボランティアに “頑張って下さ～い” と声を
かけて行った。女川復興委員会のメンバーとか（後述）。

そうした最中、海上保安庁の人がやってきて、岩壁で見つかった
遺体を我々が作業している側を通して運べないか聞いてきたが、
足場が悪いとのことで、また船で別の接岸場所に移動・・・辛い現実である。

2階からの食器降ろしで階段を20往復くらいした・・・また山に
行けそうな気がしてきた。 もう一日で済みそうなところまできた。



海水での
泥落とし



2. ボランティア活動日誌(5)

* 15日午前/午後: アイルランド ダブリン生まれのSteveさんの女川取材に同行<案内: 藤中さん、中本さん>
Steveさんは英国通信社所属。2年前に石川県小松市近くの大聖寺(加賀市)に来て、英語教師もしているとか。藤中さん案内は、大学紛争時代の仲間、橋本保さん(京産大教授)の依頼によるとのこと。中本さんは、女川での藤中塾の初期の頃の生徒で、車を出してくれた。仙台からバスで石巻に来たSteveさんを藤中さん・中本さんが車で迎えに行き、渋滞で遅れて11時半照源寺着。配給食の昼食(その日は珍しく、ピザ・フライドチキン)の後、出発。コースは、照源寺ー(徒歩)ー総合体育館ー(車)ー原発ー仮土葬所ー照源寺(Steveさん泊)(p.2,3の地図参照)…。以下、写真メインにて。



津波で押し流された電車



総合体育館内の避難所…
仕切りもでき、随分綺麗になった



原発までの入り江
…家や瓦礫が浮かんだままこの下に…



駅近くの藤中さん宅/Steveさんと



物資保管所…
仕分けボランティアもいる



入り江の各部落は全滅
…津波直後の風景を残したまま

2. ボランティア活動日誌(6)



小屋取浜から原発を望む



横倒しのままの家…
宙吊りの仏壇が悲しい



コバルトラインそばの高台の
仮土葬所…藤中さんが泣いて
いた

* 16日: 早朝出発のつもりだったが、避難所のおじさんが話しかけてきて、1時間以上、聞いていたらお腹も空いたので、朝食を摂ってから出発。どのみち歯科医は間に合いそうもないので、知人の親御さんの消息を尋ねるべく、東松島市に向かう。知人の名前と大体の住所しか知らないのだが、市役所災害対策本部の担当者が丁寧に調べてくれ、お父さんは新聞で見た通り津波に巻き込まれて死去、心配していたお母さんは避難所にいた履歴があり、住所を聞いて訪ねた。お母さんにご家族が戻られたところに出会い、事情を話してお線香をあげさせてもらった。その後、海岸部を通り、東北道に入って帰宅。



仙台東部道路の海側の田んぼは泥をかぶり、瓦礫が散乱していた

3. 被災者・避難所生活

* 藤中さん： 女川に戻ってから、照源寺で寺子屋を始めているが、さらに別の避難所（海泉閣/高白浜）でも夜の塾を始めるとのこと。勤労青少年センターの避難所にいるが、スペースは一畳で、朝食7時、夕食17時、しかも消灯9時・・・Steveさんがprisonか、と言っていた。塾で生計を立てながら、ずっと女川で暮らしたいと考えているが、仮設住宅にいつ入れるか、塾をどこで開くか等、今後の生活設計が立てられない。

* 中本さん： 震災前に離婚し、子供さんのうち一人を奥さんが引き取ったが、津波で奥さんが亡くなり、子供を引き取るための手続きで苦労している・・・膳本もなくなったし、家裁に行ったが手続きがよくわからない。ご両親のお世話もあり、土木屋なので震災復興に燃えているが・・・

* 末永さん： 生ウニを乗せる台を作る工場を経営していたが、両親と家・工場を失い、奥さんが行方不明。事業再開は無理なので、友人と政府支給金を出し合っの共同ホームを考えている。またバンドも始めたいが（芸名：気まぐれ天使）、ギターも無くした。何かやらないかと思ってるが、奥さんが見つからないと、ふんざりがつかない。

* 林さん： 帰るときに話かけてきた方。藤中さんと同じ避難所にいるが、狭い中、あまり話もできないとのこと。生きてることを伝えたい人いるとのことで、名前・大体の住所を聞き、帰宅後、電話番号を調べて連絡できた。



駐車場が私の寝泊り場所
だんだん人が話しかけて
くれるようになった



最終日は、お別れパーティ

4. 女川復興の歩み

* 女川復興の現在の主役は自衛隊・・・実に頼もしい。

重機で破壊されたビル・瓦礫をどんどん撤去し、街中は毎日、景色がどんどん変わっている。前述のお風呂や各種施設を用意してくれ、おまけに礼儀正しく、私にまで敬礼してくれる。韓国の徴兵制のように、日本の若者も一定期間自衛隊に入りたいと思うようになった。



総合運動場の自衛隊基地

* 町民からの復興の動き

女川町復興連絡協議会(女川FRK)の設立準備会議が14日に開催され、前述の中村雅俊もそのメンバーの一人。会長・副会長とも藤中さんの知り合い(生徒の親)であり、4月19日に設立総会を行い、意見を集約して、行政に具申し、議会と合わせて三位一体で女川の復興を目指すという。役場などあちこちに生徒がいて顔が広い藤中さんに、各種情報を送ってくれるよう、依頼。復興の方向性を知り、ボランティアとして求められていることを知るため。

* そのために、藤中さんにPCを贈りたい。携帯メールだけでは限りがあるからであり、塾をやっていくにも必要だから。



藤中さんが送ってくれた
新聞記事、右がFRK会長

5. ボランティアに来ている人達

- * 女川ボランティアセンター： 全国社会福祉協議会の被災地ボランティアセンターリストに載ってないが、行けば登録後、活動できる。ただし、海際の地形で傾斜がきついため、津波被災は、all(なくなる) or nothing(無事)的で、半壊や1階だけ浸水の家は、平野部被災地よりずっと少ないので、センター公開をしてないとのこと。
- * 人数は10数人から多い時で30数人規模(最終日に寄った東松島市では150人)全国各地から私が知り合ったのは下記の皆さん。いい仲間と知り合えた。
 - ・川島さん： 静岡市清水より。建設会社勤務の土木屋さん。49歳、バリバリ。
 - ・湯上さん： 横浜いずみ野より。テント・食糧を持って電車・バスで女川入り。食糧尽きたら帰ると。60歳。
 - ・池辺さん： 大分市より。私より一週間前に来て、継続。31歳。
 - ・地元被災者もボランティアに来ている。被災者には日当を出すというニュースを聞いたことがあるが、女川も早く、そうなると良い。
 - ・外人も多い。サイエントロジー協会は国際ボランティア組織を持ち、米国・タイなどから結構な人数の模様。
- * ボランティア保険加入が必要。私は大和市社協で加入。自宅から被災地への移動時も保険対象になるから。



(川島さん) ボランティア仲間 (湯上さん)